

北広島町酪農団体連絡協議会

八月一日 N O S A I 広島

北広島家畜診療所会議室

(有)山尾牧場

サシバエ対策を学ぶ 牧場での駆除実演で納得！



(山尾牧場での現地視察)

北広島町酪農団体連絡協議会(会長、西原嘉一)は、サシバエ対策をテーマとする研修会を開催し、これには会員十二名の参加があった。この講師には、橋本洋輔氏(サシバエ研究所代表)を招き、研修会は、座学と現地研修の二部構成で行った。



(現地指導の事前研修)

座学では、サシバエの被害、生態、その対策を柱にスライドによる視覚に残る講演を聴講し、その後は、(有)山尾牧場(北広島町阿坂)に移動し、座学研修での内容を踏まえ、現地実演によるサシバエ駆除の方法を教わった。

橋本氏は、サシバエの成虫が潜んでいる牛舎周辺の草むらや、幼虫の発生源となる堆肥が積まれている堆肥舎等特定し、プルスフオグ(煙霧消毒機)を使用した殺虫剤を噴霧された。

その数分後にはサシバエが地面に落ち会員はその成果を評価した。

会員からは「サシバエの潜んでいる場所などを知ることができた。研修を受けて良かった」との感想が多くあり、有意義な研修会となった。

賀茂地域酪農団体連絡協議会

八月十日 N O S A I 広島

東広島家畜診療所会議室

役員会「交流会十一月十四日」 賀茂芸南 授精師協会と合同研修会

賀茂地域酪農団体連絡協議会(会長 檜垣義雄)は、第二回役員会と賀茂芸南家畜人工授精師協会との合同研修会を開催し、会員・関係機関を含め十八名の出席があった。

役員会では、八月二十五日に第九十三回広島県畜産共進会の出品牛選定を予定し、第二十四回賀茂地域畜産研修交流会は、十一月十四日(火)、(有)トムミン・目標・夢などは、人それぞれにあり、それに向けて進め、実現できるよう協力していくことが、私たちの使命である」と締めくくられた。



(黒瀬氏からの説明を聞く参加者の様子)

ルクファーム(東広島市豊栄町)を会場に行うこととした。

役員会終了後は、黒瀬智泰氏(N O S A I 広島東広島家畜診療所)を講師に招き、「酪農におけるベストパフォーマンスとは?その実現のためにできること」と題する講義を聴講した。

黒瀬氏からは「モチベーション・目標・夢などは、人それぞれにあり、それに向けて進め、実現できるよう協力していくことが、私たちの使命である」と締めくくられた。

総会・役員改選 組合長に田邊輝之氏 今後は若い世代へバトンタッチ

口和町酪農組合(組合長 道下伸雄)は、平成二十八年年度総会を開催し、組合員三名のほか、庄原市役所口和支所・森末室長をはじめ杉谷係長、広酪から岩竹重城組合長、竹ノ内寛治課長補佐(経営支援課)が出席した。

道下組合長は「酪農家戸数が減少したが頑張りました」と挨拶され、来賓の庄原市 森末室長からは、市単独酪農事業の紹介と共に、意見・要望を求められ、岩竹組合長からは、TMRと乳脂肪率、暑熱による乳量低下、廃棄乳発生、若齢預託事業、中販連情勢、初妊牛価格の推移、山陽乳業(株)の株式売却など、最近の酪農情勢に触れて情報提供と共に挨拶した。

議事に入り「平成二十八年年度事業報告並びに収支報告」では、厳しい財政状況にあつて、運営体制の見直し等の検討が必要との意見があつた。

役員改選では、田辺輝之氏が組合長に就任され、道下組合員からは「こ



れからは若い世代に交代して行きたいとの意向が伝えられた。総会終了後は、これら情勢報告や情報提供内容を話題に意見交換を行い、大いに盛り上がった。

第十一回庄原農協畜産共進会

八月二十二日 庄原市戸郷町・旧庄原家畜市場

総合首席「庄原実業高校」 県共出品牛十頭決定

庄原農協主催の第十一回庄原農協畜産共進会が開催され、乳用種の部では、第一区十一頭、第二区三頭の十四頭の出品があつた。肉用種の部では、子牛十九頭、成牛十五頭の出品があつた。

乳用種の部の審査員は、難波匡克氏が厳正な審査にあたり、総合首席には、庄原実業高等学校(庄原市西本町)の出品牛「シヨウジツ アキ ドロシー ニコ」が選ばれた。

この結果、優秀賞十頭(第一区八頭、第二区二頭)を十月三十一日開催の第九十三回広島県畜産共進会への出品を決定した。



三次市ホルスタイン共進会

八月二十八日 三次市内

三次市酪農振興会(会長 橋本洋資)は、巡回審査による三次市ホルスタイン共進会を開催した。

橋本会長のほか、広島県北部畜産事

務所、三次市、広酪の四者五名による審査の結果、第一区一頭、第二区一頭、何れも(有)檜高牧場の牛を県共候補牛として選抜した。

として選抜した。

三次市酪農振興会

八月十七日 広酪本所会議室

通常総会・研修会 広酪TMR普及の成果発表

三次市酪農振興会(会長 橋本洋資)は、実出席八名、委任状十一名、十九名の出席もって第十三回通常総会を開催し、関係機関から六名が出席した。

総会では、平成二十八年度事業報告並びに収支決算の報告を行い、平成二十九年度の事業計画並びに収支予算案、会費の徴収を協議し、上程した三議案全てを可決した。

また、総会やイベントへの参加人数が減少する中であって、若い世代に役員を引き継ぎ、多くの積極的な活動ができるよう協議した。



総会終了後は、「飼料用稲WCSを利用した広酪発酵TMRの普及」をテーマに、みわTMRセンターの竹ノ内寛治所長が、広酪TMRのこれまでの経過とともに、これまでの課題と解決、そして、供給実績と酪農家の夏場の乳成分維持等を例に挙げた講演を聞いた。

西部地区酪農団体連絡協議会

八月二十三日 広酪西部事業所近隣

GG・BBQで交流!! 西部地域七十四名が参加

西部地区酪農団体連絡協議会(会長 福原務)は第二十四回西部地区親睦交流会を開催した。会員家族、関係団体から七十四名の参加があり、グラウンドゴルフ大会と懇親会(バーベキュー)を行い、交流を深めた。

開会にあたり、新会長の福原務会長から「来年も引き続き、この会を開催できるよう頑張りたい」と挨拶され、続いて、来賓の北広島町町長代理の落合農林課長から「酪農情勢も厳しいが、地域・関係団体との交流を深め、親睦を図って頂きたい」と挨拶された。



グラウンドゴルフ大会は、好天の空の下で楽しむことができ、三戸伸也氏が十六のスコアで見事優勝された。その後の懇親会では、バーベキューを楽しみ、和やかに交流を深めることができた。閉会挨拶した、広酪の吉川春三理事は、西部事業所の今後の在り方について触れられ、「このような交流会を引き続きできるように考えていきたい」と締めくくり閉会した。

東城酪農振興会

八月二十九日～三十日 東城酪農家三戸・東城温泉

二日間に亘る研修 酪農家三戸で バーンミーティング

東城酪農振興会(会長 和田慎吾)は、あかばね動物クリニックの鈴木保宣院長を招き、初日は管内三戸の牧場でのバーンミーティング、二日目は東城温泉で講義を受け、二日間に亘る研修会を開催した。

バーンミーティングでは、牛群検定成績の確認と共に、フリーストール牛舎三戸、フリーバーン牛舎一戸で、直接、牛や施設の状況を確認しながら、カウコンフォートを主体にした説明や提案を受けた。



二日目の講義では「低カルシウムについての勉強ができた」、「とても分かり易く実になった」、「有名な先生に来て頂けた」といった、満足度の高さが伺える感想を聞いた。

「五輪はチャンス」PRを 「安全・安心・良質」がキーワード 納涼会で懇親深める

あきたかた酪農振興会(会長 井上正芳)は納涼会を開催し、河井克行衆議院議員をはじめ、安芸高田市議会



議員四名、関係機関からの参加もあって、二十一名が交流を深めた。

井上正芳会長は「暑い日が続きますが頑張っていますようにしましょう」と挨拶され、河井議員からは「酪農を応援する」と心強い激励を受けた。

参加会員から河井議員に「日本は東京オリンピックを控えており、外国人観光客も増えると思うが、酪農にとつて、こういったメリットがありますか・・・」との問いに、「これはチャンスであつて、日本・そして、広酪の製品を如何にPRして、リピーターになって頂けるかが大事。自信をもって生産して下さい」と答えられ、参加者は安全・安心、良質な製品づくりの必要性を再認識されていた。

記念撮影では、参加者全員で六月の牛乳月間のキャッチフレーズ「愛してミルク」のかけ声で叫び、一体感が得られる交流会となった。

シヨージおいしい牛乳交流会 角牧場で酪農体験 消費者・生産者百十五名が集う



甲奴郡酪農組合(組合長 溝邊清春)は、西條シヨージ(本社広島県東広島市西条土与丸)が、山陽乳業(株)と共同開発した商品「シヨージ広島県産おいしい牛乳(以下「県産おいしい牛乳」)の原料乳を生産する縁から消費者との交流を続けられており、今回の企画には、生産者・消費者(親子連れ)百十五名が甲奴ウイングドーム(三次市甲奴町)に集い、バーベキューと角牧場(府中市上下町)で交流を深められた。

溝邊組合長による歓迎の挨拶の後、消費者・生産者・山陽乳業(株)社員・広酪職員は十班に分かれ、それぞれ参加者の手に持つコップには「県産おいしい牛乳」が注がれ、地元酪農家の山本雅陳氏が「ようこそ甲奴の地へお出で下さいました。今日は楽しんで帰って下さい」と乾杯の発声を行い、バーベキューを囲んでの交流に入った。

前日から当日の朝まで酪農家のお母さん方が、自作の野菜を持ち込んで野菜セットやおにぎりを作つての『おもてなし』があり、食後は乳製品や地元産の野菜詰め合わせセットが当たるビンゴゲームで楽しまれた。

その後は、角康晴さんの牧場に会場を移し、餌やり体験を行い、消費者からの質問にも優しく応じられていた。

全てのスケジュールを終えられた消費者ご一行は名残惜しそうちに、バスに乗り込み、酪農家に見送られて牧場を後にされた。

このイベントを通じて、消費者に酪農家の考えや酪農現場への理解とともに、消費者から酪農家への期待などを感じる事ができたような気がする。